



大川市で始めてよかった！

わたしたちの農業LIFE

～大川市内で農業を営む3組の農家をご紹介します～





経営作目
アスパラガス (19a)

石井 将大さん (41)

就農時期 / 2018年 3月

メリット、デメリットを天秤にかけ 「農業に挑戦したい！」と決意

わたしは以前、建設関係の仕事をしていました。
県外の現場が多く年間1/3は出張で、自宅から出勤する際は朝6時に起きて帰りは夜8時過ぎという状態。
そんな毎日に疲れ転職を考えていた時に、たまたま出会った息子の友人の父親がアスパラガス農家の方でした。
話を聞くうちに興味をそそられ、仕事が休みの日にまずはお試しでハウス作業を手伝わせてもらったんです。
そしたら自然に触れ合える作業がとても新鮮に感じました。

農業は、

- ① 自分が頑張った分だけ稼ぎになる
- ② 知識を得る、技術を習得することが結果につながる
- ③ 人間関係に左右されにくく、1人で集中して作業できる

という**メリット**と、

- ① うまくいかなかった場合、会社員の時の収入より減るかもしれない
- ② 決まった休みがない

という**デメリット**を両天秤にかけた結果、

「やりたい！」という気持ちが勝り家族に伝えました。

しかし妻は冒険を求めず安定を望むタイプ。しかも、18才を筆頭に4人の子どもがいます。
当初は大反対にあっけしき、結局、1年間かけて説得することになりました。
でも、その間も休日は知り合いのハウスを手伝っていましたから、
農業研修がスタートした後はスムーズに知識と技術を吸収することができました。





経営作目
アスパラガス (19a)

石井 将大さん (41)

就農時期 / 2018年 3月

1 番の成果は、 お金に変えがたい心豊かな暮らしを手に入れたこと

大川市は小さな町ですから、新規就農者の情報はすぐに共有されます。

研修期間中、手を抜くことなくしっかり向き合えば

「話は聞いていたよ。うちに土地が余っているから貸してもいいよ」

と声をかけてもらえることがあり、私もトントン拍子で農地が決まりました。

また、自分で研修先を選ぶことができますし、

独立後も師匠としてしっかり面倒を見てもらえるのが心強いですね。

私は師匠に恵まれたため、独立1年目の収量は同期13人の中でトップという結果を残すことができました！

その後、豪雨の被害を受けたり、必要経費が上がるなどマイナス面がかさみましたが、

補助事業の流れや経営のノウハウを師匠や周囲の農家の方々に

丁寧に教えてもらったので助かっています。

そして、嬉しい誤算だったのは、

自分でペース配分をすることで家族と過ごす時間をしっかり取れることです。

今まで1度も参加できなかった子どもの学校行事にいけるようになりましたし、今は部活の送迎をすることもあります。

繁忙期には子どもがアルバイトで手伝ってくれるので、

以前とは比較にならないほど充実した日々を過ごせています。

今年から借金の返済がスタートしますから、不安がないと言えば嘘になります。

でも、お金に変えがたい心の豊かさを手に入れることができました。

去年はモチベーションが下がり収量が減ってしまったので、

今年は気合を入れ直して、自分史上最高を達成したいと思います。



経営作目
いちご (24a)

古賀 大輔さん (44)
夏子さん (39)

就農時期 / 2019年6月

20年間やっても収穫は20回。 1回にかける情熱に惹かれました

以前は夫婦揃って会社員でした。
それまで「転職したい」と思ったことは1度もありませんでしたが、
代々、米農家を営む両親から
「農業は時世に左右されることなく安定していていいぞ。就農しないか？」
と持ちかけられ、初めて検討したんです。

正直、当初は「僕たちは農業って柄じゃないよね」という戸惑いの方が大きかったです。
ところが、近くのいちご農家を見学させてもらううちに心をうたれ、

「1年に1度しかない収穫にかける思い」

「自分たちも夫婦で力を合わせて頑張ってみたい」

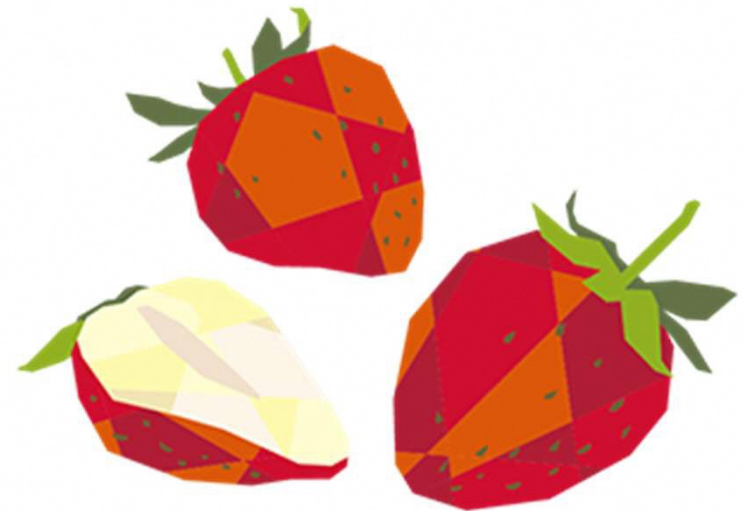
と思うようになりました。

大川市で作られるのは、いちごの中でも希少価値が高く、
大粒で、濃い甘味が特徴の「あまおう」です。

福岡県限定生産ですから、「あまおうの生産者になりたい！」

と**全国各地から移住する方がいるほどの注目品種**。

以前は「農家＝年配の方ばかり」というイメージを持っていましたが、
同世代の新規就農者が活躍していると知ったことも、
農業に飛び込むきっかけになりました。





経営作目
いちご (24a)

古賀 大輔さん (44)
夏子さん (39)

就農時期 / 2019年6月

独立後、成功している若手多数。 研修制度の確かさを実感

1年間の研修が始まってすぐは独立後の不安が大きく

「1つ残らず取りこぼすことなく吸収しないと！」と必死でした。

しかし、**研修を終えた先輩たちがしっかり実績を残している**姿を見て、

「彼らを真似すれば自分たちにもできるはず！」

と気づいてからは気持ちが楽になりました。

実際、独立後も講師が定期的に畑を見にきてくれます。

多い時は月に数回！

その都度わからないことを聞けますし、

講師の方からの的確なアドバイスをもらえるので助かります。

さらに、大川市だけでいちご農家は100軒以上あり、

近所の方たちと意見交換する機会もたくさんあるから安心です。





経営作目
小ねぎ (140a)

田中 優幸さん (47)

就農時期 / 2019年1月

農業は会社員以上に稼げる？ 就農2年、実際に稼げています！

大川市は職人がつくる良質な家具でも有名です。
私も大学卒業後、家具の卸売業に就き、
2008年からは社内ベンチャーとしてインターネット会社を立ち上げ、結構な高収入を得ていました。

就農のきっかけは、実家が代々農家を営み土地とノウハウを持っていたこと。
さらに、**農業もやり方を工夫すれば今と同等以上の収入を得ることが可能**
だと分かったからです。
ちょうどベンチャー会社が軌道に乗り、新たな挑戦へ進むいいタイミングだったというのも後押しになりました。

私のモットーは、

「成功している人に直接尋ねて
ノウハウをうかがい『いい』と思ったことは真似をする」です。

他県の生産者にも広く目を向け、切磋琢磨することで収量は確実にあがります。

現在、就農3年目ですが、ぶっちゃけ前職よりも稼げています。
そして現状に満足することなく、今と同面積の農地で収量を上げるために
「いかにしてロスを無くすか？」を追求していこうと思います。



経営作目
小ねぎ (140a)

田中 優幸さん (47)

就農時期 / 2019年1月

通年栽培でき、市場価格が高い！ 小ネギは新規就農にピッタリ

福岡県でネギの一大産地といえば朝倉市が有名ですが、大川市も歴史の長さでは負けていません。小ネギの東京市場を開拓したのは大川市で、ほとんどが県外へ出荷されます。

これまで培ってきた実績が市場でも力を発揮するため、**高値で流通されるのが特徴**です。

また通年収穫を行っていますので、時期によって値段の波があっても1年を通して帳尻合わせができますし、**天候や病害虫の被害を受けても蒔き直しがきくので新規就農を考えている方にはピッタリ**です。

小ネギは水が豊かな土地でなければ育ちませんが、大川市は筑後川水系にありますので問題ナシ！

しかも少し北のエリアになると逆に水が多すぎて管理が難しくなったり、南のエリアでは台風の影響を受けやすいというデメリットがあります。

ですので、
中間の大川市が小ネギ栽培のベストエリアといっても過言ではありません。



経営作目
小ねぎ (140a)

田中 優幸さん (47)

就農時期 / 2019年1月

新規就農地を選ぶ基準は 「本当に頼れる人がいるか」

ゼロからの新規就農を目指す方は、多かれ少なかれ資金面の不安を持っていると思います。
その点、**大川市は県への補助金申請や申請書の書き方を丁寧に教えてくれますし、大川市独自の補助事業もあります。**

また、**農家ごとの課題や挑戦したいことに寄り添い、**
「例えばIoTを取り入れるならこんな方法がある」
と**具体的にアドバイスをしてくれるので安心**です。

現在、私も農業研修生を受け入れています。
農家として成功する秘訣は、
「なぜうまくいかないのか？」を頭で考えるより、
成功している人に素直な気持ちで「教えてください！」と聞くことです。

頼れる農家がいるか、いないか。
挑戦を支えてくれる制度があるか、ないか。
就農地を選ぶ大事な基準です。

